「援助」を問うオンライン講座（第１回）

テーマ：ビルマ（ミャンマー）

避難民支援を続けて

日本ビルマ救援センター（BRCJ）中尾恵子さん

カヤ―州国内避難民食糧支援

ビルマ（ミャンマー）の 2021 年 2 月 1 日の軍事クーデターから 5 年 8 カ月が経ちました。昨年 12 月から 1 月にかけて実施された総選挙で勝利したミンアウンフラインは、軍政を継承した体制を 4 月に発足させました。しかし、民主的な体裁を取っていても新軍政権の彼らに反対する人びとへの弾圧は止むことなく続いています。最近でも「ミャンマー国軍が 9 月 28 日、少数民族との戦闘が続く西部ラカイン州の市場周辺を空爆し、市場で働いていた民間人ら５０人が死亡した」と報じられました（時事通信、9 月 30 日）。

軍政への抵抗運動を続ける人びとは、タイなどの国境近くに逃れていますが、こうした人びとや少数民族への支援は極めて少なくなっています。こうした情勢で、日本ビルマ救援センター（BRCJ）は下記のとおり 30 年以上にわたり、市民の支援を頼りに現地への食糧、医療などの支援などを行うとともに、自立のためのプログラムに関与されてきました。

今、日本の ODA（政府開発援助）政策は、「貧困削減」などを目的とするよりも「国益」とする日本企業の権益確保や安全保障への傾斜を強め、もはや援助とは言えないものに変えられようとしています。こうした中で、BRCJ の取り組みは重要な意味を持っていると考えます。

コアネットではこうした立場で、BRCJ 代表理事の中尾恵子さんのお話をお聞きする貴重な機会を得ました。下記のとおりオンライン講座を開催し報告していただきますので、ぜひご参加ください。

● 日時：11 月 27 日（金）19 時～20 時 30 分

オンライン（ZOOM）のみとなります。視聴ご希望の方は ZOOM の URL と資料を送付しますので下記まで連絡ください。参加費無料

三ツ林　メールアドレス：y-mitsuba@jcom.zaq.ne.jp　電話：090-8382-9487

一般社団法人　日本ビルマ救援センター　団体概要

1988 年、軍事政権を批判し民主化を求めて立ち上がったミャンマーの人びとを待ち受けていたのは、市民、学生、僧侶らに数千人の死傷者を出した、軍による冷酷な弾圧でした。

日本ビルマ救援センター（BRCJ）は、当時ミャンマーに滞在し、この惨事を目撃した仏教徒のカワサキ・ケン・ヴィサカ夫妻が取り組んだ病院への募金活動から生まれました。

センターは 1988 年から 30 年以上に渡り、困難な状況下でも民主化運動を続ける人びと、軍政の残虐な民族迫害政策や対ゲリラ戦によって土地や持ち物を失い、生命の危険に直面している人びと、タイに逃れて苦しい生活を続ける人びとを物心両面で支援してきました。

BRCJ のリーフレットから

戦略 ODA と原発輸出に反対する市民アクション（COA-NET、コアネット）HP: http://coa-net.org/